



<本年度会長方針>

あらためてロータリーを考えよう No.1155

承認 1985年2月12日 例会日 木曜日 12:30 例会場 名古屋東急ホテル  
会長 川畑 博敬 事務局 名古屋市中区栄4丁目6番5号 丸越ビル6F  
幹事 田崎 雅三 電話 (052)251-0181 FAX (052)251-0337 〒460-0008  
URL http://www.nagoya-osu.org E-mail office@nagoya-osu.org



こころの中を見つめよう 博愛を広げるために

第1358回例会

識字率向上月間

平成24年3月22日(木)  
クラブフォーラム

於 名古屋東急ホテル  
会員 62名  
出席計算数

57名中49名出席  
出席率85.96%  
前々回出席率94.12%  
%

ロータリーソング

「それでこそロータリー」

指揮者 伊藤 与則  
ピアノ伴奏 富板 玲子

ニコボックス

加藤さん堀江さんスピーチよろしく  
御願いたします。

川畑 博敬・田崎 雅三  
杉本 英夫・春日井和良  
本日卓話させていただきます。

堀江 英弥  
本日、お詫びの卓話をさせていただきます。  
加藤巴千彦

今夜は麻雀例会です。お忘れなく  
よろしく。 近藤宏一郎

昨日はワイン例会に多数ご参加  
いただきまして、ありがとうございました。  
岡村 隆徳

尾上さんありがとうございます。  
観水さんお願いします。宇野 史仁

会長挨拶

川畑 博敬

昨年の10月27日、会長卓話の  
時間に大源俊博さんにバトンタッ  
チしてドット・フランク法につい

ての解説をして頂きました。その  
中で、2008年秋のリーマンシ  
ョックの金融危機後、アメリカ金  
融界のやり方が危機の元凶だと  
して金融規制監督を大幅に強化し  
ようとオバマ大統領が2010年7  
月21日「リーマン・ドット・フ  
ランク法が成立したとお話しされま  
した。UNIONで今この法律はど  
んな状況になっているのでしょうか  
? ドット・フランク法は、約  
400項目におよぶ規則の制定が  
必要とされていますが、今年1月  
初めまでに完了したのは2割ちょ  
っとで、全般的に作業がおくれ  
ています。これは、雇用機会を減少  
させると共に金融業界のアメリカ  
離れを誘引し、アメリカ市場の競  
争力を落とす結果になるとして法  
案成立の足を引っ張っている共和  
党とその支持母体の一つアメリカ  
金融界によるロビー活動の結果で  
す。

しかしながら、アメリカ金融界が  
共和党を使ってドット・フランク  
法の足を引っ張っているのは、規  
則が全て制定されると利益が大幅  
に減ると予想しているからなので  
す。

リーマンショックを引き起こし、  
多くの失業者を出し、FRBやア  
メリカ政府にドルと米国債を過剰  
発行させ、QE1、QE2によつ  
て資金援助をして貰い、それにも  
かかわらず自分たちは高額な報酬  
をもらい続けるという不公平感を  
多くのアメリカ人が感じています。  
昨年、米銀JPMorgan・チェ  
ースの投資銀行部門従業員2万  
5099人に対し、平均で34万  
1552ドル(約2750万円)  
支払っています。アメリカの金融  
規制強化は、いつの間にかうやむ  
やになるかもしれません。

多くの人に迷惑をかけても、自  
分さえ良ければいいと言っ考えは  
ロータリーにはありません。

会員増強推薦者バッジ贈呈

渡辺観水さ  
ん(桑山光俊  
さん紹介)へ

川畑会長より  
「会員増強推  
薦者バッジ」  
が手渡されま  
した。



クラブフォーラム

「識字率向上月間に因る」

地区識字率向上委員

堀江 英弥

3月は識字率向上月間です。R  
I理事会は1986年、識字率向  
上を10年間の強調プログラムに設  
定しました。そして1997年7  
月の理事会で毎年7月を識字率向  
上月間に定め、2006~07年  
度からは3月に移行しました。

R Iは6重点分野として、①平  
和紛争予防/紛争解決 ②疾病予  
防と治療 ③水と衛生設備④母子  
の健康 ⑤基本的教育と識字率向  
上 ⑥経済と地域社会の発展に  
取り込んでいますが、識字率向上  
はポリオプラス計画のあとを継ぐ  
R Iの重要なプログラムになると  
言っています。

今、世界の人口は70億人を超え  
さらに増加の一途をたどっていて  
2050年には地球上の人間の許  
容量80億人を超え100億人に  
までなると推計されています。そ  
して現在15歳以上の非識字率者  
は8億人といわれています。その  
内64%が女性がアジアとアフリカ  
で占めています。

世界銀行では1日1ドル以下で  
生活している人々を最貧困層と定  
義しています。2ドル以下で生活  
している人を貧困層と定義してい  
ます。世界銀行の2001~20

05年の報告書によると11億人が1日1ドル以下で暮らし、27億人が1日2ドル以下で生活しています。また、1100万人の子供が5歳の誕生日を迎えずに死亡し、8億人が貧困のため毎日おなかをすかせています。

非識字率が多い国ほど出生率が高く、5歳以下の幼児死亡率も高く、小学校5年次までの在学児童の割合が下がります。さらに、平均寿命が下がり収入も低くなり貧困の悪循環を生み出します。こうした悪循環を断ち切るためにも基本的教育と識字率の向上活動を支援し、文字文明から置き去りにされている人びとに救いの手を差し伸べねばなりません。

この様な世界の現状をご認識いただき、奉仕活動のご理解をお願いいたします。

### クラウドファンディング

#### グローバル補助金について

加藤 巴彦  
(次号以降に掲載いたします)

#### 新入会員卓話(3月15日例会)

##### 「仏教保育を通して」

子どもたちへ伝えたいこと

桑山 光俊

### 教育理念

教育実践の大元の根本の考え方は人間の脳、特に大脳新皮質の発達観に基づいています。最近の脳



ブームのことですので、すでに皆さんご承知のことと思いますが、私たち人間の最も人間らしい機能とは、この大脳新皮質というところで動いています。

その発達は、誕生してからだいたい6年間、その間で全体の6割から8割までが決まります。つまり、この幼児期こそ人間としての基礎を形成すると言われるています。

私たちの脳は、単純に申し上げると二つの領域、右脳と左脳に分かれています。右脳、右の方の脳は、感覚や感性を司る、そして左の左脳は、理性や論理を司ると言われています。幼児期の今こそ、大切なのは、この右の脳、右脳でありそこで育まれた感覚が将来の左脳、言葉で考えたり論理で組み立てたりする力を作っていきます。

### 教育目的

つまり、今この幼児教育の目的とは、これからの小学校から上の知的な学習感とは全く異なるものであると是非ご認識いただきたい

と思います。言うならば、小学校から上の見える学力を育てる基礎としての感覚強化、いまこの幼児期こそ見えない学力を育てることが私たち高感幼児園の教育実践の根拠となっています。

では、今が一番大切なこの幼児期において、子供たちの感覚や感性を養うためには、どうあればいいのでしょうか。

高感幼児園の教育活動を実際にご覧になった方は様々な活動がテンポ良く次々と展開されていく様子に驚かれます。漢字や数字も扱えますが、これを教えることが目的ではありません。どれも子供たちのためだけに感じを育てるための楽しい遊びであって、園児たちも生き生きと全身で心えてく当園の教育活動は、知、徳、体の3つの要素が一体化したモデルとなっています。知とは、徳とは、こころ、体とはからだを表し、そのうち一つとして欠けることのない互いが響きあって人間の全体的な発達を育む事が出来ます。

幼児教育の目標とは小学校の教育の先取りではありません。将来花咲く人間性の基礎・基本を人格の太い根っこを育てることを目標としています。

もちろん、あらゆる教育には目指すべき目標があります。跳び箱を10段飛びこすも、有名なチャイ

コフスキーの楽曲を演奏することでも、当園の子供たちは実に元気に取り組んでくれています。しかし誤解してはいけないのはそのこと自体が私たちの教育の目的では無いということです。

### 教育活動

幼児は大きな発達願望を持っています。もっと学びたい、もっと動きたい、もっとつながりたい、そついで願いを持ち生きています。それは人間が人間として生きていく大切な本能ですが、それらは頭や心や体の発達とも関連しながら幼児の全面発達が可能となります。

この全面発達こそ、高感幼児園の知、徳、体の総合幼児教育の原理でもあります。当園の教育活動では、子供たちは全身をフルに使って活動しています。一つ一つの完成度を競うというよりも、活動全体を通して人間の感覚・感性のすべてを、持っている五感の全てを全速体験させて生きる喜びを全身で表現してくれているのです。そして、ひとりひとりの存在を活かすのは、クラスの友達、幼児園の友達との大切な関わり合いです。この子供集団の力こそ、個々の可能性を



高める共鳴板です。幼児園教育とは学習塾とは違います。集団の中で、互いに協力や信頼の関係を育む、時に挫折や葛藤を経験する事を通して、集団という社会の中の自己を確立していくのです。

### 仏教保育

高感幼児園の教育全てに共通するものは、仏様の教え、仏教教育です。子供たちは毎日仏様に手を合わせ御供を唱えます。

仏教の伝統的な型を通して、この幼児期にこの力ではどうしようもできない力に触れることで、仏様のこころ、本当のやさしさやかしこみ、感謝のこころを育むことを願っています。

仏教のシンボル、赤い蓮の花のよつに美しく気高くたくましく、そしていつも慈しみの心にあふれた、そんな仏の子供たち育てていきたいと念じています。

### 4月5日(木) 例会の案内

#### SPEAK OUT DAY

##### 広報委員会

- 酒井 修・吉田 明夫
- 松永 裕子・小野 定男
- 西鶴 智恵香

\*本文は、原則 頂いた原稿を転載しています。